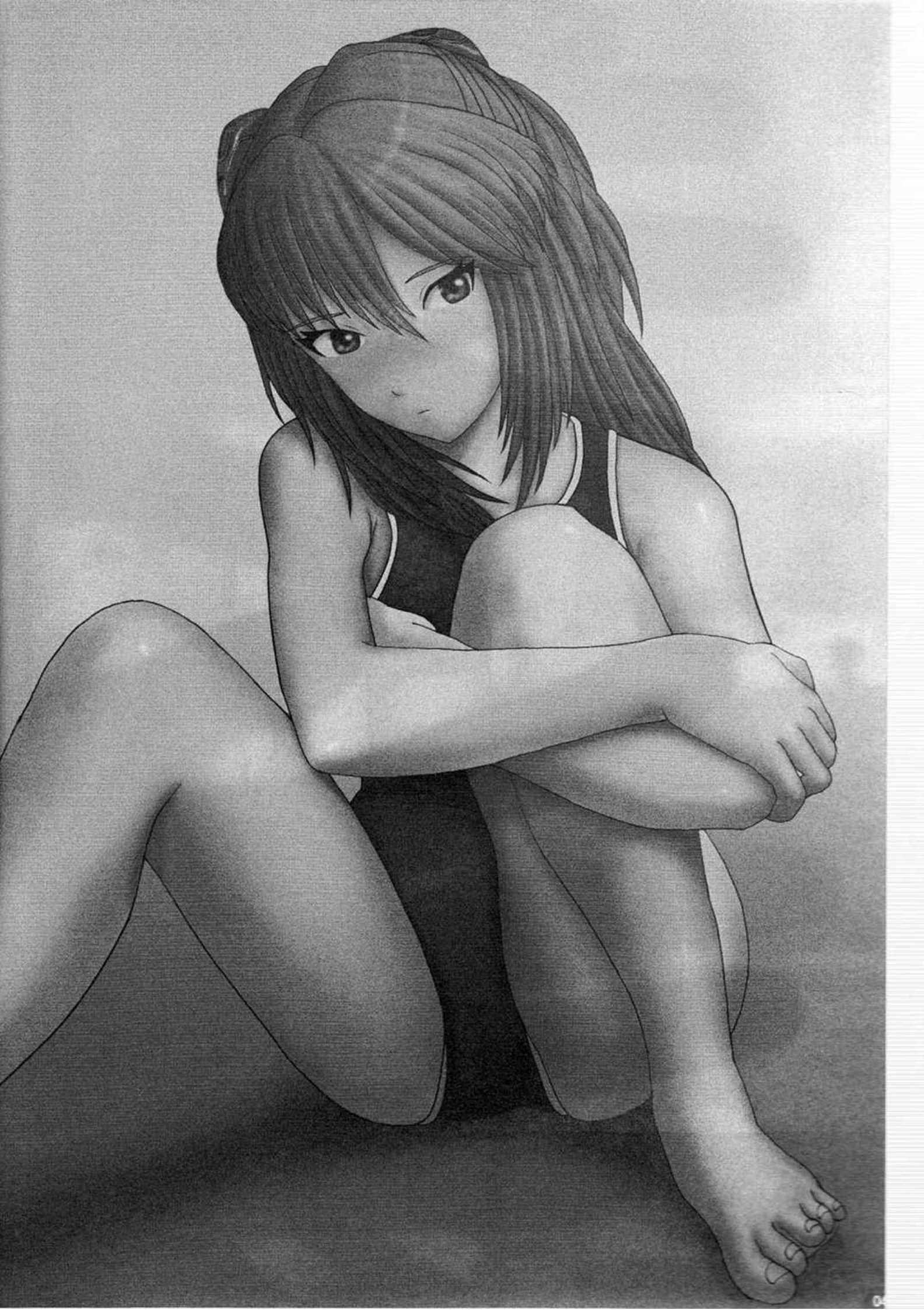


UNDER MENU  
UNDER MENU

4

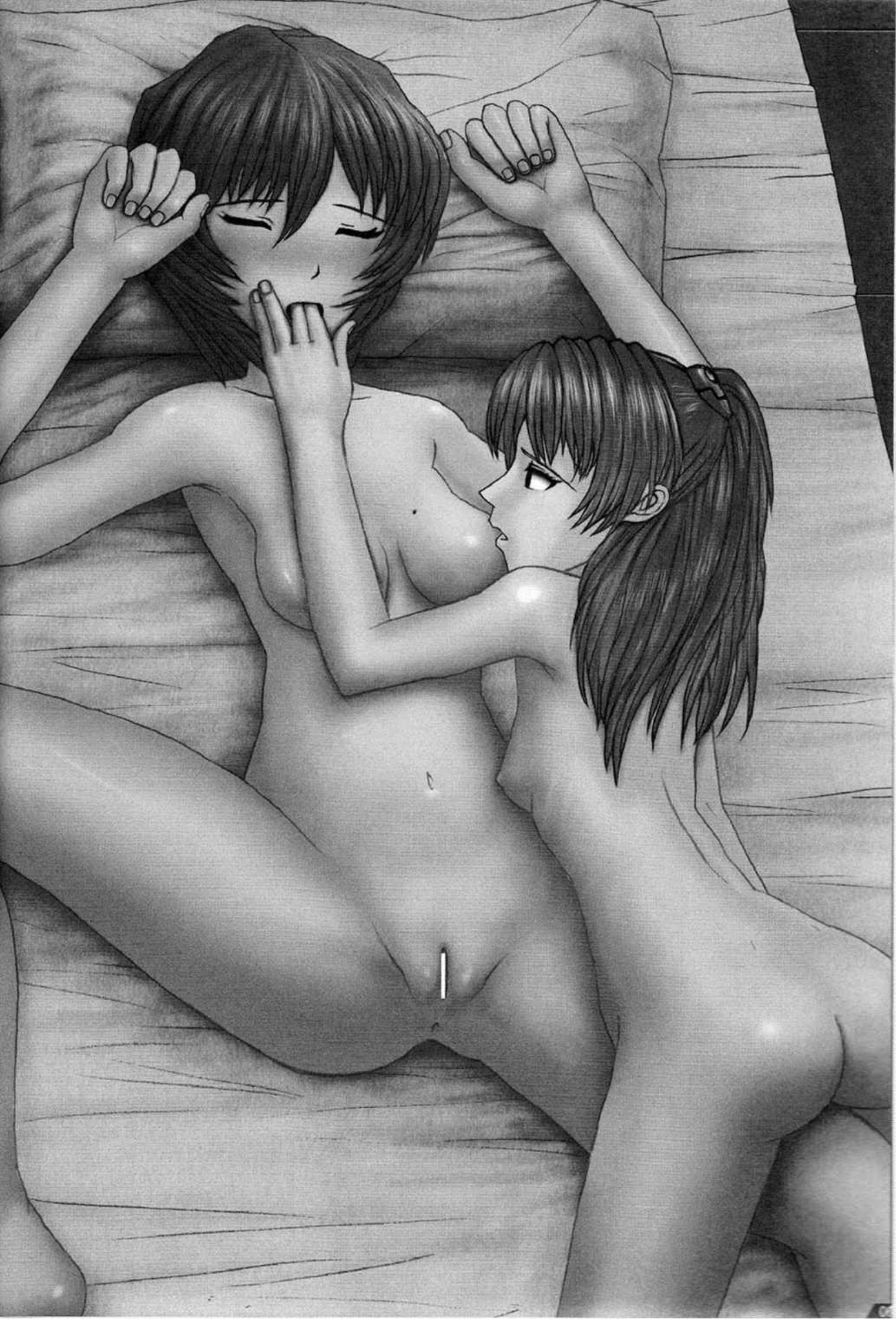






























椅子に足を組んで座っていたリツコが、水槽に歩み寄る。

「あら、実は、結構楽しんでるみたいじゃない？」

レイの口の端からは、周囲のものとは異なる液体が流れ出ていた。

そして、陰毛が揺らめく下半身からも、リツコはリモコンをレイの下腹部の辺りまで滑らせ、ガラスをつついた。

「そろそろこっちの相手もしてあげなくちゃー」

途端にアヤナミがレイの腰をつかみ、股間の茂みに顔を近づめる。

レイはそれに気づき反応しようとするが、身動きが取れない。

長時間の愛撫により、股間からはおびただしい量の液体が漂っている。

アヤナミが陰部に顔を近づめると、鼻先が恥丘をくすぐった。

たったそれだけの刺激でも、じらされたレイの身体には十分だった。

「んあっ！」

首をのけぞらせて悲鳴を上げる。

レイの反応に気をよくしたのか、アヤナミはそのまま下腹部を舐め始めた。

「んっ！んっ！んっ！んっ！」

下の唇をなぞるように舐められ、声を上げそうになるのをこらえる。

アヤナミはその様子を見て、怪訝そうに首をかき上げる。

そして、口の周りに愛液をつけたまま、アヤナミはレイの茂みからそっと顔を離れた。

下半身が解放されて、安堵するレイ。

「ひやっ！」

だが、突然ウアギナに指を挿入されて裏返った声を上げてしまった。

アヤナミはクイツと指を曲げて、瞳の天井を刺激する。

「うくっ……」

「あつ、ああ……」

「さあ、もっとスピードを上げましょうね」

リツコがスイッチをいじると、アヤナミたちの動作が加速した。

「あつ……あああつ……くうっ！」

加速した舌の動きが、レイの敏感な部位を責め立てる。

アヤナミに押さえつけられた身体が、ビクビクと痙攣を繰り返す。

「ああっ！んんっ！」

さらにスポットを刺激していた指が加速し、絶頂間近のレイに追い討ちをかけた。

レイの下腹部からヌラヌラと輝く液体があふれ出してくる。

「やっ……あああつ……」

身体を大きくのけぞらせると、高い叫び声と共にレイは絶頂を迎えた。

グツタリとしたレイは、力なく水中に漂っている。

その様子を満足そうに見つめるリツコ。

「はしたないわ、自分の分身相手にソッウなんて。まあ、自分に犯されるなんてオナニ

ーみたいなもんなんでしょけど」

うなだれるレイの頭を両手で抱き、何者かがまたレイの口に侵入してきた。

力なく目を開くレイ。

しかし、そこにあるはずの姿が見えない。

見えるのは少しはなれたところに漂うアヤナミのコピーたちと、水槽の向こう側にいるリツコだけだった。

「あなたの感覚を、他のコピーたちとリンクさせたの。他人の快感がそのままあなたに流れ込むなんて、素敵でしょ？」

そういつてリツコの示す先には、お互いの口をむさぼりあっている2人のアヤナミがいる。

そして、その隣には股間をこすりつけあっているアヤナミたち。

「いやっ……」

達したばかりの敏感な下腹部に、再び快感の火種がともる。

その一人一人の感じている刺激が、ダイレクトにレイに送り込まれてくる。

「あつ！あああああつ！」

胸が無数の手に揉まれ、同時に歯を立てられ、指でいじられる。

普通ではありえない刺激だった。

レイは自分の身体を抱きしめるようにしてうずくまるが、快感はレイの身体を苛み続ける。

「ひやあああつ……」

突如、レイの陰核を得体の知れない快感が襲った。

「どう、気持ちいいでしょう？コピーたちが一斉にクリトリスに触れたら、そのぐらいの刺激になるの」

水槽に漂う無数のアヤナミたちは、みな自分の下腹部に手を伸ばしていた。

リツコがリモコンでアヤナミたちに指示を出す。

「コピーたちは包皮をずらして陰核をむき出しにすると、そこを一斉にこすりだした」

「あつ！いやあああつ……」

敏感な部分がこすられ、痛みにも似た快感が襲ってくる。それも通常の何倍もの刺激だった。

「うぐっ！あああああつ……」

もはや形振り構わず悶えるより他になかった。

身体を激しく痙攣させ、絶叫を続けるレイ。

「ねえ、全員で同時にイッたらどうなるかしら？とっても気持ちいいんじゃない？」

リツコは意地悪な笑みを浮かべて、レイに近づく。

「コピーたちが陰部に感じている刺激すべてを、一人で受け取っているレイ」

もはや、リツコの姿を正視する余裕はなかった。

レイの瞳は快感で潤んでおり、涙が水中に溶け込んでいく。

リツコがスイッチを操作すると、アヤナミたちはそれぞれの絶頂に向けて、自分の身体をいじり始めた。

ある者は、胸を揉みしだしながら指をウアギナに入し入れする。

快感が洪水のごとくレイに押し寄せる。そして、絶頂がすぐそこにまで近づいていった。コピーたち全員が、レイの身体ひとつに。

「はあつ！あああああつ……」

水槽の中で快感がはじけた。

何十分ものオルガスムがレイの下半身で爆発した。

「はあ……あつ……」

池に浸ったレイがその場に漂う。

バクバクと魚のように開閉する口からは唾液があふれ出し、水槽の上方に流れていった。

その姿を満足そうに眺めるリツコ。

「これで私の身体測定はおしまい。測定結果あなたは「欠陥品」。正確には測定しやなくて私の独断かしら。それよりも、次の綾波レイを決めなくちゃね」

リツコは適当にアヤナミを一人選んで、それを水槽から取り出す。

「さあ、他のみんなは新入りに仲良くしてあげてね」

絶頂の余韻にひたるレイに、また無数の手が差し伸べられた。







ヤシマ作戦前



信じられ  
ないの……?

お父さんの  
こと…

数日後  
……



ママの女



……波

…綾波…

ん…

綾波！

あ…っ

こ、こ、  
これは…っ！

碇…  
…くん？

やあ 綾波、  
やっと目覚めたね…

あの時の僕の気持ち、  
君にも味わって欲しくてね…

え…  
何のこと？

婁日後…





セマひびくッ!!

スミッぽんなん!!

親父にもぶたれたこと無いのこー!!

いやあああ

熱いッ!!

何気分出してやるッ!

このブタあッ! ち、

ああ……

んああおおおんっ♡

お、お尻  
裂けちやろ

ハゲツレだらうがハゲツ  
カツンチロん!!

はんっ♡

あっ♡

あっ♡

あんっ♡

ああっ♡  
...け、ケツっ♡

ケツっ♡

パーン!!

くああっ!!

違っ...!

ああ...











腹の中のザーメン  
全部 ひりだせっ！

イッ  
ツイ  
イイ  
イイ  
イイ  
♡  
イイ

ピクッ

ゾク  
ゾク

はあ……  
あ……ん♡

派手にクソまで撒き散らしやがって……！  
もっとお仕置きが 必要だね……



綾波はそこで休んでなよ…  
大丈夫、  
アスカを連れて来たら  
またいっぱい  
遊んであげるからね☆

ちよつと飽きてきたな…：そうだ、  
あいつも連れて来よつと

ほら、  
今日転校して来たアスカ  
あいつもいきなり  
僕を叩きやがって…！  
綾波と同じように  
反省してもらわないとね…

今の碓くん、とても変…  
このままじゃ  
私、駄目にされちゃう…



To be continued. …?





## おくづけ

こんにちは、HAWKEAR (ハウケア) です。  
とりあえず新劇場版・序が公開って事で、今のところのヒロインである  
綾波をただ虐待するだけの頭の悪いモノになってしまいました。  
段々、描いているうちに綾波じゃ無くなってくるし・・・。  
新キャラ登場の「破」に期待ですね、ネタとしての興味は薄れているかもしれないですが。

今後は何を描くにせよ、責めのバリエーションを増やしたいですね。  
ホントは鼻責めだけでもゴハンのおかわりはできるんですが。  
こんなのがお嫌じゃなければまたお付き合い下さいね☆ HAWKEAR (ハウケア)

こんにちは、DECHAMP (でしゃん) です。  
とりあえず今回は初のオフセット本に挑戦ってことでいろいろ大変でした。  
なんとかここまでたどりつけましたがやればやるほどいろいろ悔いが残りますね  
まあ、それは次回から一つずつ改善していければと思うこのごろです・・・。

エヴァ本ってことでやっぱ綾波ですよ！綾波！  
綾波といったらスクミズですよスクミズ！  
ブルマも描きたかったけどそれはまたの機会に・・・  
なんかただの変態ですねオレ♪ DECHAMP (でしゃん)

発行日：2007年 12月31日 初版発行

発行元：JUMELLES (ジュメルズ)  
t0h1k8ta@mail.goo.ne.jp  
[http://www.page.sannet.ne.jp/tkht1213/jumelles\\_index.html](http://www.page.sannet.ne.jp/tkht1213/jumelles_index.html)

発行者：HAWKEAR (ハウケア)  
DECHAMP (でしゃん)

印刷：しまや出版





**JUMELLES  
SETTELLES**